

庄内学園視察記録 概要

日 時	平成28年 9 月12日 (月) 13:40 ～ 16:10
場 所	庄内学園
内 容	
1 開会 2 委員長あいさつ 3 庄内学園校長あいさつ 4 参加者自己紹介 (所属・氏名のみ) 5 小中一貫校視察の趣旨説明 (掛川市教委担当) 6 小中一貫教育の推進について (浜松市教委、庄内学園) <u>※主な内容</u> (1) 浜松市における小中一貫教育について ・夢と希望をもって学び続ける市民の育成のため、「個々の子供の成長のためどうするか」という視点で教育をしていく必要性がある。 ・小中一貫教育を「9年間の学びと育ちをつなぐ教育」、小中一貫校を「同じ敷地内で小学校と中学校が1つの学校として運営されている施設一体型の学校」としている。 ・中学校区を基本として、小中一貫教育を進めている。 ・浜松版小中一貫カリキュラムを作成している。 ・小小連携に力を入れている。 ・小学校は学級担任制であるが、一部教科担任制を入れることで、子どもの成長を複数の目で見ていく。 ・浜松中部学園が次年度開校する。平成19年に小中一貫校について検討したい旨の意見が出されてから、検討を進めてきた。 ・引佐北部小中学校は、平成24年に開校。100名程度で小規模校と小中一貫の良さを生かした学校。4-3-2制。ふるさと科、国際コミュニケーション科を開設、教育課程特例校の申請を出している。 ・小中一貫教育の良さは、「子どもの可能性が伸ばせる」「一人の子どもを多角的に見られる」「地域の人、もの、ことを効果的に生かせる」「子どもの無限の可能性を引き出せる」「9年間を見通した系統性のある学び」 ・第3次教育総合計画でも、小中一貫教育を重点項目にしている。 (2) 庄内学園について ・北庄内小、南庄内小の2校を統合し、庄内中と施設一体型小中一貫校を開校した。 ・村櫛小の卒業生が中1から入ってくる。 ・開校準備会 (市教委主催) を3年間で24回実施。校舎の建築、校章、校歌、通学方法など。 ・小中一貫合同研修会 (校区主催) を3年間で42回実施。 ・企画部会 (教務主任) として週1回集まって協議した。 ・スクールガイドを毎年作成している。保護者、教員にとって大変役に立っている。 ・庄内学園版の小中一貫カリキュラムを作成した。 ・開校時から、バス通学児童は半数近くいる。 ・教員の力量を高めるために非常に役に立っている。小中教員が話し合うことで、互いの文化を理解することができる。 ・入学前までにできることは何か、入学後にすべきことは何かを洗い出して、適切な支援ができる。 ・小中一貫校とは、「9年間の学びと育ちのシステムを整備すること」と捉えている。 ・開校1年目は、4-3-2制だったが、2年目からは4-2-3制に変更した。6年生のリーダ	

ーとしての活躍の保障が大きな理由。教育課程特例校申請はしていない。

- ・ 初等部の4年生が、1年生から4年生までのリーダーである。中等部の6年生は小学校のリーダー、中学生のフォロアーである。高等部の9年生はスーパーリーダーである。
- ・ 小中で意図的に交流を行っているが、別々にやった方がよいものは別々にしている。
- ・ 中1ギャップについては、姿が見えることで対応できる。それで対応できないギャップは、誰もが乗り越えなければならない段差である。
- ・ 校務分掌はまだ課題がある。もっと円滑にできる方法はないか。教員の意識の高め方や、縦の関係と横の関係を考慮した組織運営をしたい。

7 施設見学

8 質疑応答・意見交換

- ・ 小中一貫校開校で苦労した点を教えて欲しい。
 - 通学に関することが一番苦労した。通学路や通学バスの経路について、保護者と協議を何度も重ねた。
 - 保護者は、今までの学校と比べてどうかを考えて評価することが多い。
 - 一例として、運動会で、中学生のソーラン節を見て、後ろで真似して踊っている小学生、小1の50m走の応援を声をからして行っている中学生の様子から、施設一体型小中一貫校の良さを保護者も実感してくれる。
- ・ 開校までの経緯を教えて欲しい。
 - 平成20年に、庄内地区自治会連合会から、市長・教育長へ、庄内地区小中一貫校設立に関する要望書が提出された。
 - 平成22年に、庄内地区自治会連合会から、提案書が提出された。
 - 平成23年に、市教委事務局で小中一貫校開校準備会を設立した。校区主催の小中一貫合同研修会を行ってきた。
- ・ 掛川市に向けて、それぞれの立場でアドバイスをお願いしたい。
 - 地域発で、小中一貫校設置の声が高まればよい。
 - 市の経費削減のためであることが前面に出れば、反発は起こる。夢のある学校を作ろうというスタンスで進めることが大切。
 - 地域の学校への思いが強いので、地域や保護者の声を真摯に受け止めて、どのように進めていくかが大切。
 - 人事配置の配慮、職員の意識をどう高めるかが大事。
 - 子供にとってどうかを最優先にしたい。
 - 子供の姿を見てもらって理解をしてもらう。
- ・ 幼保の関係をどう考えているか。
 - 学区の地域の子供たちの様子を共有している。
 - 幼保担当者が27年度から市長部局に移ったため、連携しながら進めている。

9 お礼の言葉

10 閉 会